令和６年定例９月会議一般質問

質　問　者	質　問　事　項　及　び　要　旨	質問の相手
森岡　正雄	**保育士・福祉士の人材育成と確保について** こども園では人材不足による０歳児の預かりができなくなっており、また福祉では在宅介護の充実を望む声があります。 現在懸命に保育、福祉のお仕事に従事されている職員の皆さんも年々年を重ね、いつかはご退職されることを考慮すれば、将来的に人材が不足することは目に見えており、安定したサービスを提供するには若い人材の育成、確保が急務となります。 子どもは宝として教育に力を入れている小値賀町、介護を必要とする高齢者が多い小値賀町であるからこそ、町民に対し十分納得のいくサービスを提供しなければいけないと考え、以下４点を質問します。 ① 人材が不足することで､将来どのような事態が想定されるか。 ② 保育・福祉人材の育成をしている学校と連携し、卒業後本町に戻ってくることを条件に、オープンキャンパスの交通費や受験料の補助、就学支援をしてはどうか。 ③ そうした学校に、本町において保育実習を受けた場合に得られる補助があることを、学生や保護者に周知してもらってはどうか。 ④ 中学校、高校において、保育や介護の体験授業を実施し、保育士や福祉士を志す人材づくりをしてはどうか。	町　長
小辻隆治郎	**沖ノ神嶋神社の保存と観光について** 町指定文化財である沖ノ神嶋神社の、歴史的・文化的な意義は評価されてしかるべきと考えるが、現在はほとんど話題に上らない状態である。 相対的に、歴史的文化遺産に対しては町民の関心は低いが、再認識をアピールすることは、本町としても自信と誇りを持つことに繋がると思われる。その一環として沖ノ神嶋神社の保存を図り、観	町　長 教育長

	光施設として活用すべきであると考えていることから、以下のことについて伺う。 ① 沖ノ神嶋神社の歴史的価値について伺う。 ② 平成３０年７月に「野崎島の集落跡」が世界遺産の構成資産として登録されて以後の観光客数の推移を伺う。 ③ 野崎港から旧野首天主堂に至る道路は整備されているが、野崎港から沖ノ神嶋神社までの道路及び案内標識を整備する必要はないか伺う。 ④ 建物自体も老朽化し、倒壊する危険性が高いと思うが、建物を補修した履歴が判明していれば、その内容を伺う。 ⑤ 沖ノ神嶋神社が倒壊し建物が失われた場合に与える影響は、どのようなものになるか伺う。 ⑥ 小値賀町内に「もう一泊」してもらうための素材として、また、五島市や新上五島町を訪れる観光客を小値賀町まで来させるために、沖ノ神嶋神社を活かすことはできないか伺う。	
江川　春朝	**フェリー及び高速船の高い運賃について** 今年の夏は、観光客、帰省客ともに大変多かった。 そこでやはり聞こえて来るのが、佐世保航路の旅客船の運賃が高過ぎるという声だ。島民割引対象外の方にとっては、耳を疑う金額である。 半額である町民であっても、年金暮らしの方や、生活にゆとりの少ない方が、病院への通院などの際、重くのしかかっている。 JR 運賃並みの運賃低廉化の実現は、一部の町民だけではなく、特別扱いでもなく、子どもからお年寄りまで分け隔てなく、全ての町民に行き渡る政策であるからこそ、必ず実現しなければならない。 昨年の一般質問での、町長の答弁からの進捗状況を伺う。	町　長

今田　光弘	**総合計画における１学年１５人という人口目標について** 　新たに４月からスタートした第５次小値賀町総合計画。 　少子高齢化が進む中で、将来的な人口目標として、１０年後の2034 年４月の目標は１８９７人。その実現のためには 14 歳以下(中学生以下)各学年１５人を確保する、とある。 　町内の小学生は学年平均で今は１３人に届いていない。またここ数年、出生数も一桁が続いているという中で、目標を１５人という高い数字に設定した理由とそれを実現するために具体的にどのような施策を展開するのか伺う。	町　長
	「空き家バンク」の拡充と「空き地バンク」の創設について 　先般の出前議会の場で総務課が「空き家バンク」について説明したが、求めているのはすぐに住むことができる家に限るとのことだった。 　移住を決めるに当たっては住む家の確保は大きな問題で、定住促進住宅などはあるものの住める年数は限られている。 　すぐに住むことができなくても自分でリフォームやリノベーションできる、自由に手を入れることができるというのは、見方を変えるとむしろ大きな魅力になり、移住希望者だけでなく、町民にとってもメリットがあると思うがいかがか。 　また建物ではなく、土地を買ったり借りたい人、逆に売ったり貸したい人もいるようなので「空き地バンク」制度も始めてはどうか。 　さらに、移住者にぜひ小値賀に来てほしいという町の姿勢を見せるためにも、これらの施策の充実だけでなく、もっと積極的な情報発信が必要ではないか。	町　長

立石　光助	**予防医療を目的とした医療機器の導入と活用について** 近年、医療技術の進歩により、病気の早期発見・早期治療が可能となり、健康寿命の延伸に大きく貢献しています。 特に、予防医療に特化した医療機器の導入は、住民の健康増進、医療費の削減、そして小値賀町の持続的な発展に寄与するものと考え、以下を質問いたします。 ① 予防医療に係る取り組み全体の現状および現在、町が保有・活用している予防医療に特化した医療機器の、種類・導入時期・活用状況は。 ② 今後、導入を検討している予防医療機器は。 ③ 予防医療機器の導入・活用において、医療機関・介護施設、その他民間事業者との連携体制はどのように構築していく予定か。 ④ 地域住民の健康データを活用した、より効果的な予防医療の提供に向けて、どのような展望をお持ちか。 ⑤ 超音波式骨密度測定装置や血糖値測定装置、ウェアラブルデバイス等の生体情報モニタリング装置を導入し、フレイルサポーターや民間事業者による予防医療に係る活動との連携を強化し、地域住民の健康状態のデータを個人ごとに継続的に把握・管理し、個人にあわせた予防医療を提供できる体制は構築できないか。	町　長